

公益財団法人さんりく基金  
令和4年度第2回評議員会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和5年1月31日(火) 午後1時30分から午後2時15分
- (2) 場所 岩手県医療局会議室(盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎5階)  
及びWeb会議システム「Zoom」

2 評議員の現在数

評議員7名

3 出席者

- (1) 評議員 菊池 透
- 評議員 桐田 教男
- 評議員 熊谷 泰樹

以下の出席者は、Web会議システム「Zoom」により参加した。

- 評議員 澤里 充男
- 評議員 志田 努
- 評議員 晴山 真澄

(2) 役員

業務執行理事 鈴木 俊昭                      業務執行理事 高橋 一志

(3) 事務局

事務局長 鈴木 俊昭                      事務局次長 及川 有史  
三陸DMOセンター長 高橋 一志                      総務管理部長 竹花 光弘  
DMO事業部長 高橋 利明                      DMO事業部副部長 鈴木 静子  
総務管理部副部長 佐藤マチ子                      事務局員 田村 優子  
事務局員 川村 泉

4 欠席者

評議員 水野 雅裕

5 議長

菊池 透

6 決議事項

第1号議案 令和5年度事業計画及び収支予算について

7 議事の経過

午後1時30分開会した。

冒頭、Web会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認し、議事を開始した。鈴木業務執行理事が、評議員現在数7名中本人出席6名により定款第20条に定める定足数を満たしており、本評議員会は成立した旨を告げた。

以降の進行は、菊池議長により進められた。

なお、議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は桐田評議員と熊谷評議員の2名を指名した。

#### 報告事項1「職務執行の状況について」

鈴木業務執行理事及び高橋業務執行理事が執行状況を報告した。

議長が報告について質問、意見を求めた。

##### 【菊池評議員】

イベント開催事業の「岩手三陸国際ガストロノミー会議」というのは、去年盛岡のホテルで開催したイベントを指しているのか。

##### 【川村事務局員】

一般社団法人燈が実施したガストロノミー会議は、沿岸開催分と内陸開催分がある。沿岸会場は、普代村のくろさき荘で、内陸会場は、盛岡市のホテルメトロポリタンで開催されており、さんりく基金の本事業では沿岸開催分のみを対象に助成している。

##### 【菊池評議員】

盛岡会場に参加したが、大変贅沢なイベントであって、シェフが腕によりをかけて料理をふるまうようなイベントであった。

##### 【桐田評議員】

6ページ、7ページの採択・実績一覧において、「事業終了」とそれ以外で区分されているが、まだ事業終了していないものの完了の見通しは。年度内に終了するのは確実なのか。

##### 【川村事務局員】

新商品・新サービス開発事業については、1次募集の事業期間が10月末までとなっており、1次募集採択者が事業完了している状態。残りは2次募集採択者であり、事業期間が2月末又は3月上旬までとなっており、現在、事業実施中であるもの。

また、コミュニティ活動・人材育成事業については、事業期間が1月末までとなっているので、これから完了報告が届き、完了確認を行うもの。

##### 【桐田評議員】

新商品・新サービス開発事業において、さんりく基金を使った商品といった明示は条件になっているのか。

##### 【川村事務局員】

その通り。チラシ、ホームページ、リーフレット等にはさんりく基金助成事業である旨表記することを必須としている。皆さん遵守いただいている。

#### 報告事項2「公益目的事業の統合について」

竹花総務管理部長が報告した。

議長が報告について質問、意見を求めた。

**【澤里評議員】**

事業統合によって、予算規模に変化は出るのか。

**【竹花総務管理部長】**

統合に伴う予算規模の変更はない。来年度の事業費は、若干、今年度の事業実施状況に併せた見直しを行ったが、統合による事業内容や予算の変更ということはない。

その他発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

**第1号議案「令和5年度事業計画及び収支予算について」**

議長は、第1号議案について事務局に説明を求め、及川事務局次長が説明した。

議長が、第1号議案について質問、意見を求めた。

**【菊池評議員】**

「新商品・地域サービス開発事業」について、事業期間を長くし、また、今まで実施していたコミュニティ活動事業を取り込むという見直しを行っているが、どういう意図か。コミュニティ形成は目的を達成したからやめるということか。

**【及川事務局次長】**

コミュニティ事業の統合についてだが、申請の状況をみると、主に交流人口を増加させるためのサービス開発という小さなイベントのような申請が多くなってきている。新サービスに近いもののニーズが高い状況を踏まえて、「新商品・地域サービス開発事業」で対応していくこととし見直しをした。

また、「新商品・地域サービス開発事業」で事業期間を長く取っているのは、販路拡大についても活動期間を確保できるよう長く設定するもの。

**【菊池評議員】**

新商品の開発に力を入れるというのはニーズに合っている。色々なところで話を聞くと、作りたい商品ではなく、売れる商品であることが重要。東北六県商工会議所連合会では、復興支援の一環として、「伊達な商談会」を開催しているが、いいものを作ると食いつきがよく、商談成功率が高い。これからはますます新商品の開発に力を入れるべきところ。

今週、盛岡広域振興局がサンセールで商談会を実施しているが、この商談会にあわせて商品開発したなど、かなり力が入っている事業者もいる。儲かるためには商品開発が大事。

**【桐田評議員】**

5年度の基本方針で「市町村や関係団体等との一層の連携強化を図る」と謳っていることを前提に3点意見を。

新商品開発の面では、先ほど報告にあった今年度採択事業の新商品について、自分自身どこまで見知っているかというあまり分からないものもある。販路支援として、沿岸の県合同庁舎や道の駅で販売したり、歴代の開発商品を並べるなどの工夫で、さ

さんりく基金がサポートしている商品をPRするのも手かと思う。

沿岸地域の振興を図るというキーワードの中で、内陸とつながっているローカル鉄道の乗客増という課題が新しく出てきており、内陸からの鉄道を使って沿岸でいろんなイベントを実施するなど、鉄道というキーワードを5年度事業活動の中に意識して欲しい。

イベント開催事業について、事業費下限要件を500万円から350万円にすることで、イベントの誘引を図ろうとするのは良いことだと思う。何かいい事業があれば支援をしてほしい。

#### 【鈴木業務執行理事】

ご意見感謝する。さんりく基金の取組も歴史を重ねてきた。商品開発支援におけるこれまでの取組の成果について、県商工労働観光部が開催する販売会などとコラボしてPRする機会があれば連携しながら、考えてみたい。

また、ローカル線が厳しい状態になっているのはそのとおり。さんりく基金は県ふるさと振興部が所管しているという面もあるので、さんりく基金の取組の中でもそういった視点を踏まえながら事業推進していきたい。

イベント事業に関しては、対象を広げるような形で事業規模の金額を下げているが、より地域の振興に資するようなイベントを採択していきたい。

#### 【高橋業務執行理事】

お渡ししている「いわて三陸まなびの旅」というパンフレットについて、教育旅行用の商談会参加時のツールとして作成した。ジャンル別に掲載しており、「震災から学ぶ」というジャンルでは、三陸鉄道の震災学習列車を一番に紹介している。学校関係者や復興関係者に渡していきたい。

また、一般事業者向けのパンフレットも現在作成している。こちらも三陸鉄道のページを設けたり工夫をしている。今のご意見も取り入れながら一層進めていきたい。

議長が、他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第1号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

議長はその他事項について意見を求めたが、特に発言はなく終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等が終了したので、議長は午後2時15分閉会を宣し、散会した。本日のWeb会議システムを用いた評議員会は、終始異状なく議題の審議を終了した。

## 8 議事録作成者

業務執行理事兼事務局長 鈴木 俊昭